

# 【小施策評価(令和元年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	経済企画課
施策	22	商業・サービス業の振興	評価 責任者	及川 隆 内線 8210
小施策	22-1	魅力ある商店街の形成支援	評価 シート 作成者	藤澤 勇 内線 8211

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<p>景気が緩やかに回復しつつあり、卸・小売の年間販売額が増加しているものの、市全体においては、卸・小売の事業所数や従業員数が減少傾向にあることから、商業の活発な事業活動を展開させるため、地域の特性を生かした魅力ある商店街や個店づくりにより集客力を維持向上し、にぎわいのある商店街を形成していく必要がある。</p> <p>また、岩手医科大学附属病院の移転後を見据え、中心市街地の活性化を図る観点から、跡地の有効活用や、にぎわい創出策などを検討する必要がある。</p> <p>高齢化の進展と相まって、地域によっては、徒歩圏内に商店がない、あるいは買い物に行くための交通手段がないなど、買い物が不便になっている地域があることから、地域や事業者と連携して対応する必要がある。</p>	<p>中心市街地の活性化に向けて、関係機関と連携しながら、来街者の増加などを図る取組を推進するほか、市域全体では郊外型大型店の進出や多様化する消費者ニーズに対応した、魅力にあふれた活気のある商店街づくりを推進する。</p>
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
<p>商店街</p> <p>商店街等の団体</p>	<p>商店街ににぎわいが創出される。</p> <p>魅力にあふれた活気ある商店街づくりに取り組む。</p>

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

実績値の推移				実績の評価		今後の方向性(令和2年度以降)
指標	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	評価を踏まえた取組の方向性	
指標① 中心市街地の年間小売販売額	百 万 円	↗	当初値 (H25) 68,272   R1目標値 71,700   R6目標値 75,100	<p>・中心市街地の年間小売販売額は、中心市街地大型店舗の閉店や新型コロナウイルス感染症の影響により減少しているところであるが、一部増加している商店街があるほか、空き店舗の数が減少するなど、好転する兆しがあった。</p>	<p>・中心市街地大型店舗の閉鎖に対応し、テナントに対する補助を行ったことなどにより、商店街への移転が比較的スムーズに進んだ。</p> <p>・商店街への補助を通じて小売業の振興を図った。</p> <p>・これまで複数年にわたる空き店舗出店に係る補助制度の活用により、中心市街地の商店街に新しい店舗が入る流れが形成された。</p>	<p>★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討</p> <p>★ 各種事業を推進していくにあたって、市の補助金、負担金は重要な財源となっていることから、現状維持が必要と考えられるが、市としても各事業の内容について十分な精査を行ったうえで交付額を算定していく必要がある。</p> <p>★ 平成29年度に策定した、「盛岡市商業振興ビジョン」に基づき、商業振興施策を体系的、計画的に推進していくとともに、令和元年度末に運用開始の「盛岡市立地適正化計画」とも連携しながら、「中心市街地活性化つながるまちづくりプラン」に沿って、関係団体が相互に連携し、社会構造の変化に対応した持続可能な中心市街地の形成に取り組む。</p> <p>★ 引き続き商店街等が実施するイベント等への補助を行い、商店街への来街促進の取り組みを支援する。</p> <p>★ 中心市街地の商店街・個店の新たな魅力発信に向けた効果的な支援策について、各商店街へのヒアリング等を通じて検討を進める。</p> <p>★ 事業承継に向けた取り組みを支援するため、商店街が実施する研修会等の際に相談窓口等の周知を図るなど、機会を捉えて働き掛けるほか、金融機関や支援機関と連携した取組について協議し、実施していく。</p> <p>☆1 商店街の個別の課題やニーズに加え、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を踏まえた「新しい生活様式」への対応などについての研修会等の開催を支援し、商店街の活性化と魅力強化を図るほか、これまであまり研修会等を開催していない商店街の補助の活用を促す。</p> <p>☆2 市が事務局を担当する実行委員会事業について、業務内容の見直し、スクラップ&amp;ビルドを行う。</p>
	<p>・中心市街地の店舗が、小売業から飲食、サービス業に業態変化しており、この流れに歯止めがかかっている。</p>	<p>・消費者が郊外大型店舗などへ移っていることやインターネット環境の普及による無店舗型小売業の増加の影響が考えられる。</p>				
指標② 中心市街地の歩行者・自転車通行量	人	↗	当初値 (H25) 48,332   R1目標値 52,300   R6目標値 53,000	<p>・商店街や起業者等への補助制度により、各種集客イベントが開催され、来街者の誘引や新規出店が図られた。</p>	<p>・出店時の初期投資を支援することにより、出店意欲が増進された。</p> <p>・定期的にイベントを開催することにより、リピーター等が来街し、賑わいが創出された。</p>	<p>★ 各種事業を推進していくにあたって、市の補助金、負担金は重要な財源となっていることから、現状維持が必要と考えられるが、市としても各事業の内容について十分な精査を行ったうえで交付額を算定していく必要がある。</p> <p>★ 平成29年度に策定した、「盛岡市商業振興ビジョン」に基づき、商業振興施策を体系的、計画的に推進していくとともに、令和元年度末に運用開始の「盛岡市立地適正化計画」とも連携しながら、「中心市街地活性化つながるまちづくりプラン」に沿って、関係団体が相互に連携し、社会構造の変化に対応した持続可能な中心市街地の形成に取り組む。</p> <p>★ 引き続き商店街等が実施するイベント等への補助を行い、商店街への来街促進の取り組みを支援する。</p> <p>★ 中心市街地の商店街・個店の新たな魅力発信に向けた効果的な支援策について、各商店街へのヒアリング等を通じて検討を進める。</p> <p>☆1 商店街の個別の課題やニーズに加え、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を踏まえた「新しい生活様式」への対応などについての研修会等の開催を支援し、商店街の活性化と魅力強化を図るほか、これまであまり研修会等を開催していない商店街の補助の活用を促す。</p>
	<p>・中心市街地の店舗が、小売業から飲食、サービス業に業態変化しており、日中の通行量が減少する流れに歯止めがかかっている。</p> <p>・観光客入込数は増加しており、交通の利便性に繋がる基盤整備事業やソフト事業の実施による一定の効果は見られるが、年間を通した通行量の増加にいたっていない。</p>	<p>・昼間の来街が見込める小売に係る顧客は、郊外型大型店舗に流れており、中小規模の企業が多い小売業は、来街者が減少傾向にある中心市街地で営業するには厳しい環境であるとともに、撤退後の店舗の後には比較的資金力があるチェーンの飲食店が出店している。</p> <p>・自転車を利用する若い年代にとって、中心市街地を訪れる動機付けとなる魅力が低下している。</p>				